

基本コンセプト

I. 開催の意義

1. 先人の歩みと感謝

- ・ 戦前・戦後を通じて世界各地へ渡った先人たちは、移住先における幾多の困難を不屈の精神と寛容な心で乗り越え、現地社会の信頼される一員として歩んできた。
- ・ 遠く離れた地にあっても故郷を思うウチナーンチュの「チムグクル（思いやりの心）」は、戦後の困窮期における物資支援や、近年の首里城火災をはじめとする有事の際の寄付など、常に沖縄の危機と復興の歩みに寄り添い、私たちを支え続けてくれた。
- ・ 1世から次代へと交代が進む今、国内外で活躍する県系人は、現地社会で確固たる信頼を築きながらも故郷を忘れず、沖縄の文化や精神を大切にし、県人会などでの伝統芸能や三線、空手等の文化活動を中心に、ウチナーンチュとしてのアイデンティティを受け継いでいる。
- ・ 彼らの功績は県民にとっても誇りであり、その繋がりは互いにとってかけがえのない財産である。

2. 大会の歩み

- ・ 世界のウチナーンチュ大会は、それぞれの地で活躍されてきたウチナーンチュの功績を称え、国内外の県系人と県民とのウチナーネットワークを築き、発展させることを目的として、1990年に第1回大会が開催された。
- ・ 以来、「ウチナー民間大使」制度の発足、WUB（世界ウチナービジネスネットワーク）の創設、一校一国運動、第5回大会での「世界若者ウチナーンチュ連合会」の発足、第6回大会での10

月 30 日「世界のウチナーンチュの日」制定など、時代ごとに多様な国際交流と人材育成の成果を挙げてきた。

- ・ 前回の第 7 回大会は、コロナ感染症の影響が残る中での開催となったが、デジタルツールを活用したハイブリッド開催へと挑戦したことで、これまで大会を知らなかった層にも認知され、ウチナーネットワークの裾野を大きく広げた。

3. 第 8 回大会の理念

120 年を超える沖縄の移民の歴史において、戦後復興をはじめ常に故郷沖縄を支え続けてくれた先人への「感謝」は、ウチナーネットワークの原点である。世代交代が急速に進む今、「第 8 回世界のウチナーンチュ大会」では、大会を一過性のイベントにとどめず、日常の絶え間ない交流や活動へと広げていくことが求められている。

本大会では、以下のことを大会理念とする。

- ・ 戦後復興を支えてくれた先人への「感謝」という原点に立ち返り、多世代化する県系人の「ルーツとアイデンティティ」を再確認しながら、独自のソフトパワーと沖縄の魅力を国内外へ力強く発信する。
- ・ 移民の歴史を直接知らない若い世代や県民、沖縄を愛する人々が主体となり、国境や世代を超えて対等に関わりながら、全員で大会を共に創り上げる。
- ・ 大会での出会いを日常の絶え間ない交流へと深化させ、産業・経済・ビジネスなどの相互発展へと繋げる。

Ⅱ. 大会目的

「第8回世界のウチナーンチュ大会」は、戦後復興を支えた先人への「感謝」という原点に立ち返り、多様な世代がルーツとアイデンティティを再確認しながら沖縄独自の魅力を発信するとともに、若い世代や沖縄を愛する人が主体となって共に大会を創り上げ、ここで生まれた絆を365日支え合う日常的な交流や産業・経済の相互発展へと繋げることで、ウチナーネットワークを未来へと持続的に継承・発展させていくことを目的とし、以下の基本方針に基づいた事業を実施する。

Ⅲ. 事業を推進するための基本方針

【方針①】 原点回帰とソフトパワーの発信

歴史を振り返り、独自のソフトパワーを国内外へ力強く発信する。あわせて歴史・文化を次世代へ繋ぎ、平和を願う心を分かち合いながら、互いの理解を深める交流を進める。

【方針②】 全員参画による未来への「共創」

「共創」を通して、ウチナーネットワークを次世代へ持続的に継承・発展させる。

【方針③】 ウチナーネットワークの発展と交流の日常化

大会で生まれる新たな繋がりが、絶え間ない交流や活動へと広がっていくことを目指す。

Ⅳ. イベントプログラム目標

【目標1】 ウチナーネットワークを維持、継承、拡大し、ウチナーンチュ同士の絆を深め、アイデンティティを確認する

・ [具体的な取り組み例]:

- 。 前夜祭パレード、開会式、閉会式、グランドフィナーレ、海外功労者等表彰式、市町村歓迎会、移民資料展示イベント、スポーツ交流、「世界のウチナーンチュの日」イベント、沖縄移民ドキュメンタリー映画上映会
- 。 日常的な交流や活動を支える持続可能な仕組みの構築・

検証

【目標2】沖縄独自のソフトパワー（文化、伝統芸能、歴史、言語、風習、風土、信仰、自然）への理解を深め、次世代へ継承、発展させる

- ・ [具体的な取り組み例]:
 - 。 エイサー、琉球舞踊、三線等、伝統芸能鑑賞・参画型プログラムの充実、空手関連イベント、首里城関連イベント

【目標3】国内外の若い世代が互いに視野を広げ、世界への飛躍と持続的な交流を促す

- ・ [具体的な取り組み例]:
 - 。 ウチナージュニアスタディー事業、レッツスタディー！ウチナーネットワーク事業、世界若者ウチナアンチュ大会、教育関係機関等と連携した機運の醸成

【目標4】異文化、世界の多様な価値観に対する理解を深め、国際協力、平和を希求する沖縄の心（チムグクル）を発信する

- ・ [具体的な取り組み例]:
 - 。 うまんちゅ大交流祭、平和交流イベント
 - 。 海から豚がやってきたミュージカル公演

【目標5】国際観光地としての「オキナワ」の魅力や県産品の価値を理解し、ウチナーの誇りをもって世界各地で魅力を共有・発信する

- ・ [具体的な取り組み例]:
 - 。 沖縄の産業まつり、伝統工芸品の紹介、ワークショップ、泡盛展示や離島フェアコラボ

【目標6】大会で生まれたネットワークを、日常的な絶え間ない交流へと深化させ、地域・ビジネスなどの双方向な発展を促す活動

へと繋げる

- [具体的な取り組み例]:
 - ビジネス交流会（ビジネス見本市、スタートアップピッチ、観光人材育成ブースの設置等）